

タウンミーティング（大保木地区） 開催報告

○日 時 平成 31 年 3 月 9 日（土） 13 時 30 分から 15 時 30 分まで

○場 所 大保木公民館 講堂

○参加者 大保木地区連合自治会長、兎之山・中奥・大保木自治会長、
民生児童委員、元兎之山自治会長、大保木会役員、林業者、西条自然学校理事長
市長 経営戦略部長、危機管理監、危機管理課長、地域振興課地域交通係長

○傍聴者 21 人

- 次第
- 1 開会
 - 2 挨拶（大保木地区連合自治会長）
 - 3 挨拶（市長）
 - 4 参加者自己紹介
 - 5 市の主要事業について
 - (1) 主要事業の説明(市長)
 - (2) 質疑応答
 - 6 地域課題①「地域防災対策」について《市提案》
 - (1) 課題等の内容説明(危機管理監、危機管理課長)
 - (2) 意見交換
 - 7 地域課題②「交通手段」について《地域提案》
 - (1) 地域からの提案説明(大保木地区連合自治会長)
 - (2) 意見交換
 - 8 まとめ・閉会
 - (1) まとめ(市長)
 - (2) 挨拶(大保木地区連合自治会長)

○会議録

1 挨拶

【大保木地区連合自治会長】

皆さんこんにちは。このタウンミーティングは、西条市連合自治会並びに市の主催で、地域の課題や要望を拾い、皆さんとこれからの地域の在り方と、素晴らしい地域にしようという思いを育てるための会合である。

午前中、この講堂で獅子舞の保存活動を子ども達と、研修室では太鼓踊りを練習していた。消え入りそうな伝統芸能を後世に残すために皆さんに集まってもらっている。

サンライズファームでも野菜を作っているが色々天気などでなかなかうまくいかない。地域づくりもそうだと思う。うまくいかせたいけどうまくいかない、でもやらなくてはならない。そうでなければこの地域の存続がかかっている。それがタウンミーティングの目指すところではないか。

地域住民約 170 名、昨年は地域を一生懸命引っ張ってくれた方々が急逝された。そんな人たちの心を背負いながら、本日、大保木地区の幸せとより良い姿を思いながら皆さんのご協力をいただきたいと考えております。よろしく願いしたい。

今日の話は「地域の防災対策」「交通手段」の 2 のテーマについて話合いを行い、事前に皆さんからいただいていた課題については手元の文書で回答いただいているので、後日また担当者と話し合いを進めたいと思う。

【市長】

皆さん、こんにちは。市長の玉井です。

連合自治会長からもお話があったが、地域で貢献された方々が亡くなるのは非常に寂しいが、我々

がその思いをしっかりと受けて大切にしていかななくてはならないと思っている。

休みの中、今日は皆さまお集まりいただき、誠にありがとうございます。私事になるが、市長に就任させていただいて2年が経過し、わくわく度日本一の西条を創っていきたくと様々な基本政策に取り組んでいるが、その中に市民主役の西条を掲げてチャレンジしており、このタウンミーティングを模索しながらやらせていただいている。

各地区によってやり方も違って来る、良く招待されてくることが多いが大保木地区は温かい、そして「限界からの挑戦」を掲げてされていて、行政としてどんなことができるかサポートしながらやっていきたい。

これまでの西条市は、小負担、高福祉ではあったが、このままいくと孫の世代には立ちいかななくなる。皆さんには少しご迷惑をおかけするが、中負担、中福祉をしなくてはならない。あれもこれもではなく、あれかこれか、その選択をしていかなければならない時代になってきた。

そんな中、この大保木地区をどう守っていくか、皆さんの思いをおっしゃっていただき一緒に解決できること、できないことあると一緒に考えていきたい、そう思いこのタウンミーティングを開催している。

どうぞ宜しくお願いしたい。

2 市の主要事業について

(1) 説明

【市長】(参照別紙資料)

(2) 質疑応答

【参加者】

自分も移住者だが、西条市は四国でまれなくらい自然環境が豊かで石鎚のおひざ元で住みやすい。

林業関係の仕事についているが、元々は土木の仕事をしていた。西条市の山も入ってみると放置林が目立っている。

林業だから聞く話かもしれないが、山好きの人がよく大保木に来て登山をしていて、登山道の荒廃、景観の荒れ具合が目立つと聞く。それが災害と関係あるのではないかとの声もある。それで山の手入れを依頼されるが、主力の方々の年齢が70を超えている。森林組合でもバリバリやっていける人がいなくなってきているのが現状。自分たちの中でもそれは問題になっている。

今までの人が普通にやれていた仕事が、今の自分たちの世代には危険で受け入れられないことが大半で、だから林業をやめてしまう。それ以上の価値を感じられる状況を作らないと従事者は減る一方と感じている。

問題が起きて、対応していくうえで、実際にそれをやる人間を確保する方法の検討を、今もやってくれているとは思いますが改めてお願いしたい。

【市長】

元市長の伊藤宏太郎氏に「山があって海があって丘があるのを忘れてはいけない」と県議会議員時代に言われていた。山の手入れを忘れていけば海も死んでしまい丘もなくなると教えられた。

森林整備はお金との相談もあり、なかなか大規模に進んでいくものではない。

だが、ある企業が50ヘクタールの山林を購入していて、その整備をする人を100人作ったらどうか、ただ、その収入だけでは心もとないので働き口をもう一つ作ってはどうか、とすすめてくれている企業がある。その材をバイオマスにすることや、スナダヤさんにもっていくことを、なんとか夢物語を現実にするためにチャレンジしたいと名乗りを上げてくれている。

行政も限られた予算の中でいかに森林整備をしていくか。しっかり生業にならないと従事しようという気にはならないので、そういった部分を民間の皆さんと共同しながら、いしづち森林組合にもお願いしながら、一足飛びにはいかないが、着実に進めていきたいと考えている。

【参加者】

水の話だが、黒瀬ダムができて水質が悪くなった。自分が子供のころは鮎等もいたが、今は台風が来たら1か月から1か月半くらい濁る。

ダムの放水で選択取水、透明のところを流す方法が取れないのかと聞いたが、県の回答は「そうし

ている。」ということなのだが、1か月くらい濁ったままだ。

今でも、黒瀬ダムから出た水と住友共同電力の兎之山発電所から出た水が合流するところで、水質の違いがはっきりわかる。

分水を止めるだけでなく、ダムの下流域の水質についても、県に市からも言っていただきたい。

【市長】

水量と水質の問題は一緒に考えていかななくてはいけない。

これから3月に県に対して回答をした後も続いていくと思うが、いかに西条の宝である地下水の保全に取り組んでいくか、量だけでなく質の部分でも県に意見をぶつけていきたい。

一気に水が流れることで、河口では海苔にダメージがあったり他にも影響があったりと聞いているので、地下水の保全という大きなくくりの中で水量、水質をしっかり見守っていけるよう整えていきたい。

【参加者】

ふれあいの里の改修工事が着々と進んで3月には完成するとあるが、箱物がきれいになり、暖かなれば利用者もどんどん増えると思う。その利用者が川遊びに川に下りると思うので荒れている部分を早急に直してほしい。

【市長】

県管理の部分だと思うので、帰りに見て確認して、県に要望をしていきたい。

2 地域課題①「地域防災対策」について

(1) 説明

【危機管理官、危機管理課長】(参照別紙資料)

(2) 質疑応答

【司会】

平成16年の台風の時はここにいる皆さんも経験して、それによって地域のコミュニケーションがとれているのではないかと思う。地域の防災について課題や他の団体で活躍されている皆さんが普段準備されていることなど、皆さんで話をしていただきたい。

【参加者】

兎之山は県道から進入するが、県道に何かあれば孤立する集落。集落の裏の市道で住友共同電力発電所を通過して194号に抜ける道を舗装等の整備をしてもらった。共同電力の後ろが少し狭く救急車両が入って来られない。共同電力と協議をしてもらって拡幅してもらえると大変助かる。道中も落石防止等の対策も順次してもらいたいが、まずは救急車両が入れるだけの幅員をお願いしたい。

また、南予の豪雨災害でも記憶に新しいと思うが、ダムの放流を一気に行った。これは黒瀬ダムも例外ではなく、私たちが心配している。集落が水没してしまうような放流だけはしないようにしてほしい。1000トン以上放流すると集落に影響がある。2000トン、3000トン放流すると集落が無くなるのではないかと思う。

【市長】

備えには2本立てが必要かと思う。1本では不安なので、もう一方をと言われることはわかる。歩いてみて確認して市でできることをしっかりしていきたい。

共同電力に対してもコミュニケーションもよく取れているので、要望を伝えて、一緒になって考えていくことをお約束させていただきたい。

放流量は1350トンがマックスとなっており、西予市の事もあり、県も管理や流量に関して非常にシビアになっている。事前放流をすることと、併せてダムの管理者と危機管理課、私とがホットラインで、水を流すときの状況の報告がある。市民の皆さんに万が一があってはならない。生命、財産を守るのが市の役目、県と相互にしっかりやっていきたい。

【危機管理課長】

放流量については、流れ込んだ量以上の水は流さないことになっている。溜まっているものを一気に流すのではない。流域面積を考えても 2000～3000 トンの放流は考えられない。

【参加者】

ダムに水が入ったら放流するのは当然だが、放流した後、どこまで水が入っていたかを確認に来ていない。平成 16 年は畑に 1 m くらい入っていた。川の縁では山から流れたものが溜まっていた。見に来てくれたら即わかることなので、後の処置をどれくらい必要か、確認だけはしてほしい。

【参加者】

大保木地域の防災対策は市内でも進んでいると思うが、いくつかの特色がある。

まず、山から川への水の出方が異常になってきている。山の保水力がないのが原因かと思うが、林業振興だけでは無理ではないか。その域を超えてしまっている。搬出できないところに人工林が置いて放置されている。

そして、山林という地目でないところにスギが沢山植わっているので林業振興のお金が使えない。

そういったところに、大保木には市内の倍以上の雨量がある。

通常の際は良いが、石鎚登山ロープウェイもあり、秋の多い時には 1 日千人以上の方が来られている。その時にもし道路が崩れたら、その観光客をどう非難させるのかも考えなくてはいけない。

大保木に入る道は限られているので、どこが崩れた時に、どこからどこに人を逃がすのか、その複数のルートを確認する必要があり、非常に重要な課題。

そして通信手段も複数必要かと思う。ふれあいの里ではアマチュア無線を活用し市内と連絡が取れるように整備をした。横峯寺にアマチュア無線の中継局があるので、うまく使えば大保木のほぼ広い範囲が繋がるので活用したが、市内との複数の通信手段と複数の避難ルートを持っておくことが重要かと考えている。

【市長】

おっしゃる通り、想定外が発生するのが現状。提言として受け止めさせていただきたい。

皆さんが心配になる通信手段、避難ルートについて、伊勢でも参拝者をどう逃がすかをシミュレーションしているそうで、我々もロープで上がっていたお客さんをどう逃がすか、シミュレーションをしっかりとっておかなくてはならない。持ち帰ってしっかりと考えていきたい。

前回、6 人がおられて、NTT の中継局の向こうで落石があったが、四国整備局局長とホットラインを結んでいて、無人の削岩機の段取りが素早くできて、次の日には帰すことができた。県知事にも動いてもらい、そういった関係も大切になってくる。何重にも備えることが大切なので、今回の提言を活かしていきたい。

【参加者】

防災のための山林の整備について、西条市では「水源の森整備事業」があり、関わらせていただいていた。平成 16 年災害の映像で、橋げたに木材が詰まって水があふれだしていたが、水源の森の仕様書では木を (4m に) 玉切りして枝払いして、横倒しにして流れないようにしてということだったが、おそらく、荒れている現場は災害跡地が多く、そういった場所で横積みにしても流れるだろうと思う。高知県の林業では、切り捨て間伐は基本的に枝払いなし、横倒しなし、原木で放置が主流。枝も張っていて、玉切りもしていない、横倒じゃないのは気になるが。そういった流出する点で言うと、今の水源の森の、玉切りする仕様はいかがなものかといった意見がある。

山林の手入れということなので、スギ・ヒノキを植えているところはそれを残し、後は全伐ということ。

有用広葉樹は残すこととなっているが、実際の山に入ると有用じゃない広葉樹もものすごくある。その中にスギ・ヒノキがパラパラとあり、それが放置林と言われる状況だが、そこで、スギ・ヒノキを残し有用じゃない樹木を全伐して、切ったスギ・ヒノキを横倒しになると、ほとんど木材が残らないし、地表も表れるし、かつ、全部横倒しだと流出もするし、危険度が高い条件もある印象がある。かなり難しいとは思いますが、状況に応じた事業の進め方をしていただけた方が防災にもつながるのではないかと。

面積をやっていく点で言うと、切り捨て枝払いなし、玉切りなしだと、3倍はやれるので検討してもらえたらと思う。

【市長】

専門的な話だが、水源の森整備事業は机上ではなく、臨機応変にしなくてはならないと再認識した。林業振興課につなげていきたい。

現場を歩いている人の意見をしっかり反映していきたい。

地域課題②「交通手段」について

(1) 自治会長より提案内容

【連合自治会長】

山間部に住む者として、普段の足の確保はコミュニケーションにもつながっていく。

しかし、交通手段がなく、ある人が日頃の公民館活動、自治会活動においてお年寄りの足について便宜をはかってくれているが、事故が起こったときどうするのか、その補償を負わせていいのかとの意見もある。良い方法はないか。

デマンドタクシーなどの施策は講じられているが、普段、気軽に対応できる体制、例えば自治会が責務を持って、保険に入り、車を確保し、運転手を委任して、といった工夫をしないと、ますます高齢者の足の確保で苦勞をするのではないかと考え、提案をさせていただいた。

山守・水守そして人守といったテーマで、人は足が立ったことで人になった。その足の確保を、今日の解決にはならないと思うが、普段で乗り合いができるような事例など、皆さんのお知恵を出し合っていたいただきたいのでよろしくお願ひしたい。

(2) 質疑応答

【司会】

バスが1日4便、その中で公民館等に来る方法を話合っていたきたい。

【参加者】

もっと詳しいことは調べないとわからないが、せとうちバスが赤字になると市が補助をしていると聞いているが。

【市長】

赤字ということではないが、周桑バスも含めて毎年度1億円くらいの補助金を出している。

【参加者】

井原議員が三島市長時代に8000万円の補助金を出していたが、昼間のタクシーは比較的安いので、市が借りて市民の足に使ったとの話を聞いた。そんな方法はどうか。

【市長】

足の確保の問題はすぐには解決方法が見つからない課題。

よりそいタクシーを実証実験中で、山間部から病院やスーパーなどに行ける方法を検討している。

ネックになるのが、西条駅から西之川まで公共バスがあるため、そこに有償で自家用車を走らせるわけにはいかない。路線がないところなどを含んだ地域で、乗合許可を持ったタクシー事業者による、デマンド等が始まっている。

子どもの部活動などでも乗り合いは問題になっており、事故の責任は計り知れないところがある。市バスも会社に運営をお願いしている。個人の方のご負担は非常に大きいと思う。

これから公民館活動に力を入れようとしている。公民館に行けば交流があり健康につながるといった核の施設にしたいと考えている中で、ここに来る足は非常に大切になる。

これは、何回も話をしてありようを決めていかなくてはいけないと考えている。有償交通にすると制限があり、悩ましい。公共交通が走っているので難しい課題だが、放っておけない課題。

【地域交通係長】

有償でバスや自家用車を使って人を運ぶことについては道路運送法で規制がかかってくる。

その目的は人の安全を守ること。高齢者が増えてバス停まで行くのもしんどい状況になっているが、安心・安全に人を乗せることが大事なことになっているため、直ぐに回答というところには行けないが、よろしくお願ひしたい。

【参加者】

有償ということを見ると、いろいろ制約があるが、自治会費を使って、無償で運営し、責任は自治会の皆で共有するといった運営の仕方はどうか。

自分の地域の足は皆で助け合って確保していく方法ないかと。運営ができる法律はないかもしれないが、できないか。

【市長】

地域自治組織の紹介をさせていただいたが、大町地区と橘地区が抱える課題はそれぞれ違う。

課題解決のための財源と権限を地域に渡して、地域の課題と一緒に解決する組織が地域自治組織である。本日の課題である「足の確保」について認められるかはちょっとわからないが、地域の課題を解決する方法として考えていただきたい。課題として受け取りたい。

(3) その他の地域課題について

【シティプロモーション推進課長】(参照別紙資料)

【司会】

質問については、後ほど公民館を通じて伝えていきたいと思います。

3 まとめ・閉会

【市長】

今日、ひざ詰めで話をする事ができた。それを受けてどう動いていくかを考え、より行政との距離を縮められたのではないかと思います、タウンミーティングの必要性・重要性を再認識した。

力を入れている地域自治組織は共同のまちづくりをしていこうという趣旨で、一緒に大保木地区をどうしていくかを考えるもの。一足飛びに課題解決できるものでもないが優先順位を決めて取り組めるところから取り組んでいきたい。関係機関との連携も行い、その情報のフィードバックも公民館や連合自治会長を通してやっていき、相互にキャッチボールができる関係でありたい。引続き、一緒に大保木を守っていききたいと思う。今日はありがとうございました。

【会長】

市長の説明のように、これから地域の者が市とともに進んでいかなければ、立ち行かなくなる。

人口が減るのは絶対の事実であり、山が劣化し水がおかしくなっている、人もおかしくなっている。山と水と人が全部劣化してしまったら国が亡ぶことになる。

山に育てられた私たちはそれを恩返ししていかなくてはいけない。行政の方にもその思いを受けて取り組んでいただければと思う。

平成16年以降、気合を入れて防災組織にも取り組んだが、だいぶ緩んできた自分を目の当たりにした今日の会だった。

1人1人ができることをコツコツとやっていき、そこに皆さんの思いを重ねて何倍にもしていくことが地域の発展につながると強く思う次第である。

今日は市長、関係市職員の方も交えて非常にいい会であったと思う。ありがとうございました。

(閉会)

<タウンミーティングの様子>

